

# 未来へ繋ぐまちづくり委員会 事業計画

未来へ繋ぐまちづくり委員会 委員長 荒川 博紀

人口減少や都市構造の変化、SNS等の発展に伴い地域内におけるコミュニティ意識が希薄化した現代において、人と地域をつなぐ地域資源について改めて見つめなおす機会が訪れています。我々は柔軟な思考をもった時代の先駆者として、歴史が織りなす伝統に現代の文化や人々のニーズを融合させた新しい魅力を創出し、地域を愛する意識を市民一人ひとりに醸成し、自らが率先してその地域に携わっていく環境を作る必要があります。

まずは、今後の少子高齢社会において、幅広い世代のニーズに対応し先導できる組織となるために、行政や他団体と共に事業構築に参画し、相互の信頼や協力関係をより強固なものとする事で、より地域に根差した団体として確立され、人々の心に残る強い組織が形成されます。そして、県内外や海外から訪れる人々に新たな水戸の魅力を認知してもらうために、水戸黄門まつりにおいて地域資源を活用し市民や観光客の来訪数が高まる事業を構築することで、拡散された魅力を基にまちの経済は活発になり、普段から水戸を愛する人々で溢れる地域となります。さらに、市民が自ら地域を経営していく環境や基盤を作るために、歴史と伝統や現代の文化に経営者という視点での新たな付加価値を融合することによって、人々の郷土愛が生まれ、個々がもつ地域に対する経営意識が向上します。また、中心市街地の空きテナントを減少させまちを活性化させるために、行政と連携し創業に対する支援システムを活用しながら学生や他団体、経営者と共同で事業を構築することで、起業に対する意識改革の機会が提供され、継続的なビジネスチャンスが創出されます。

能動的となった市民により経営されるまちは、既成概念に囚われることのない新たな発想で水戸の未来が創造され、より深い郷土愛が芽生えた市民達で市街地は賑わい、高付加価値となった地域色溢れる新たな魅力とともに、再興を遂げ脚光を浴びる地域となります。

## <事業計画>

1. 他団体との共催による地域に根差した組織づくり
2. 水戸黄門まつりにおける地域資源を活用したまちづくり
3. 新たな付加価値による地域経営の活性化
4. 空きテナントの有効活用推進による中心市街地の活性化